

小学校低学年の部

最優秀賞

とうちゃんのおにぎり

西小学校 一年 土井 結陽

まいにちあついなかおしごとをする  
とうちゃん。

あついときは、はたけからしそをとって、  
おにぎりにいれるんだよ。

くるくるにしてとんとんとん。

「あちっ！」

ごはんがあつくておとしちゃった。

もういちどぎゅっぎゅっ。

おおきいしそおにぎりができたよ。

「おっありがとう。」

とうちゃん、おしごとがんばってね。

講評

小さな手でにぎった結陽さんの「愛情しそおにぎり」、にこにこ顔でおおぼっているお父さんのようすが目にうかんできます。「とうちゃんおしごとがんばってね。」へいばんなことばですが、結陽さんのお父さんへの思いがぎゅっとなまっていくんだなあと、強く感じました。

優秀賞

ばっちゃんのはたけ

ちとせ小学校 一年 佐々木 煌来

ばっちゃんのはたけにはやさいがたくさん。

トマト きゅうり ナス

ブロッコリー オクラ じゃがいも

ゆうがお トウモロコシ ピーマン

メロン スイカ

「ばっちゃんこれもとっていい？」

ばっちゃんといっしょに

やさいをとるのはとってもたのしい。

たからさがししているみたい。

おいしいやさいをたくさんありがとう。

講評

ばっちゃんのはたけは「たからのはたけ！」ザックザック、ザックザック。なんでもとれるまほうのはたけ。煌来さんは、ばっちゃんといっしょにとるのが楽しいんだよね。ばっちゃんと煌来さんとの強い結びつきが感じられました。「たからさがししているみたい！」いいことばですね。



## ありがとうをつたえる

三本木小学校 三年 長谷川 はせがわ 紗也 さや

学校からの帰りみち。

おうだんほどうをわたるとき、

右みて左みて手をあげる。

白い車がきたけれど、

私を見つけて止まったよ。

いそいでわたってふりむいて、

頭を下げておじぎした。

ぼうしがおちてころがった。

家につくまであと少し。

スキップをして帰ったよ。



## いつもありがとう

大深内小学校 一年 山 やま 端 はた 陸斗 りくと

「ママ、ぼくが せんたくたたんであげる。」

ママは にっこりして

「ありがとう。」

と いてくれる

ぼくは そのえがおが だいすき

ママをえがおに するために

ママのえがおを いっぱいみるために

おてつだい がんばるよ

ぼくこそ

「いつもありがとう。」



## 講評

リズムカルでテンポのいい文章、紗也さんの下校時でのルンルン気分をみごとに表しています。「ありがとうをつたえる」ことは、とても大切なことですね。ぼうしがおちるくらいおじぎをし、運転手さんと思わずほえんだことでしょね。



おとうさんから かってもらった  
オオクワガタ

大深内小学校 三年 立たち崎ざき 央なかば

ギラギラひかる黒い色

するどい二本の つの

ぼくの大好きなオオクワガタ

おとうさんと やくそくしたんだ

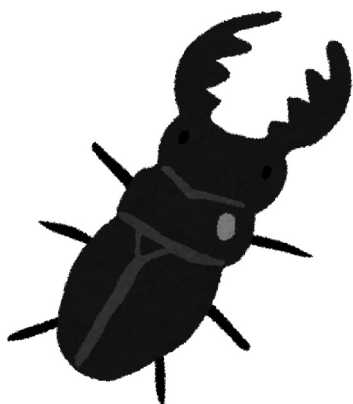
大切にそだてること

生き物にも 命があること

ぼくは しっているよ

たくさんお世話をするから

長生きしてね



みんなでこんにちは

ちとせ小学校 二年 中川なかがわら原

燎りょう

ぼくが「こんにちは」と言ったら

みんなも「こんにちは」とかえしてくれる

にこにこして手をふると

うれしいきもちになる

けんかをして「ごめんね」って言えば

またわらってなかよしになれる

ふれあいってさいこうだ





## ぼくの心

四和小学校 三年 高橋沙太

先生の手をつなぐと、

心が温かくなる。

中学校の人と手つないでも

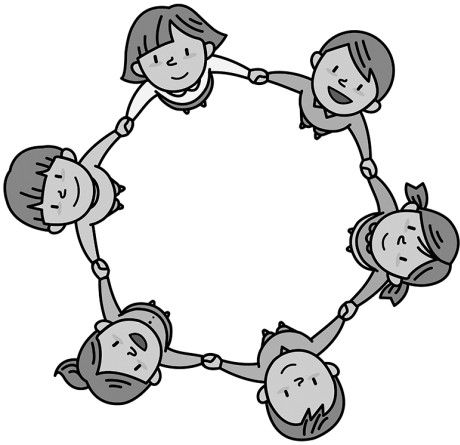
心が温かくなる。

ねる前に本をよんでもらうと

心が温かくなりました。

ぼくもおとなになったら、

ぼくもそんな人になりたいです。



## おばあちゃんのおしごと

北園小学校 一年 櫻庭陽向子

おばあちゃんってすごいんだ

たくさんのおしごとをするよ

わたしとたくさんあそぶ「ほいくしさん」

おりょうりじょうずな「コックさん」

おじいちゃんの「うんてんしゅさん」や

「くすりやさん」もはじめたよ

でも

たいへんなときはいつてね

わたしもいっしょにてつだうから

だってわたしは

ふたりの「だいすきやさん」



## にこにこーねん3くみ

三本木小学校 一年 おおむら 大村 みき 幹人 と

ともだちがこまっていたら  
かなしいきもちになるんだよ

ケガをしていたらばんそうこう  
おもいにもつははんぶんこ

どうしてもむずかしいときは  
せんせいにたすけてもらうんだ

ひとりじゃできないことも  
みんなでやればできるから

みんなでたすけあうーねん3くみ  
そんなクラスがだいすき！



## まほうの手

北園小学校 四年 えびな 蛭名 りこ 莉子

ひいおばあちゃんは94才。  
なかなか会えないけど

会うと、いつも、ふしぎに思う。

目が見えないのに

手をつないで、しばらくすると

「莉子よく来たね。」って、いつも言う。

どうしても分かるのか聞いた。

私が生まれたころ手をにぎって

ずっと、だっこしてたから分かるって。

まほうの手だなんて思った。



## 講評

九十四才のひいおばあちゃんの指に、きつと目がついているんだよね。まほうの指で、莉子さんを愛情深くとらえているように目が浮かんできます。今度会ったら、莉子さんが目をつぶってひいおばあちゃんと手をつないでみてね。どんな感じがするんでしょうか。



## こころの花

南小学校 六年 上<sup>うわ</sup>道<sup>みち</sup>暖<sup>はる</sup>叶<sup>と</sup>

学校からの帰り道  
花に水やりをしていた  
おばあさんがいた。  
さびしそうに見えたので  
僕が「こんにちは。」  
と言ったら、  
「おかえり。いいあいさつだね。」  
と言った。  
ぼくとおばあさんは、  
笑顔になって  
心に満開の花が咲いた。  
あいさつは人の心をつなぐ。

### 講 評

「あいさつは人の心をつなぐ」いい言葉です。しびれました。知らない人に言葉をかけるのは勇気のいることですが、暖叶さんはごく自然に「こんにちは」と声が出たのですよね。たったひとことで人と人との心がつながるなんてすてきなことですよね。あいさつで「心に満開の花」を咲かせましょう。



## 小さな親切：

西小学校 六年 向中野<sup>むかいなかの</sup>叶<sup>と</sup>聖<sup>あ</sup>

病院の玄関で  
腰が痛そうなおばあさん  
ポンとくつを投げたら片方ひっくり返った  
はきやすいように 片方返してあげた  
今度は玄関のとびらが重くて開かない  
その重いとびらを押して おさえてあげた  
「ありがとう」とニツコリ  
目の前で母がした 小さな親切  
心がほんわかした  
次はぼくがやろう 小さな親切  
見習おう 思いやりの心

### 講 評

思いやりの心はだれもが持っていますが、なかなか実行できません。叶聖さんのお母さんは、自然にあたり前のように行動しています。叶聖さんの目の前でのお母さんの行為が、叶聖さんの心のともしびになったのですね。今度はこのともしびを広げていってね。





## たすけあい<sup>が</sup>光に変わる

東小学校 六年 長<sup>なが</sup>澤<sup>さわ</sup>天<sup>あま</sup>音<sup>ね</sup>

たすけあいは、  
思いやりのある心  
そつと差しのべる手が  
心をあたためる  
笑顔とたすけあいが重なって  
ひとりの力がみんなの光に変わる



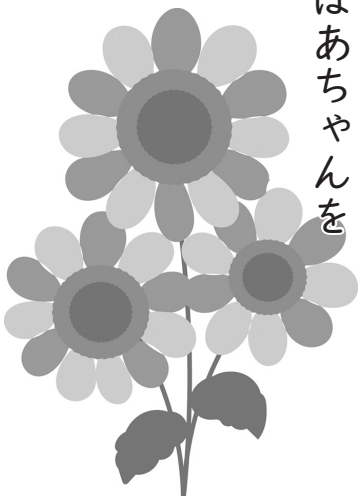
「そつと差しのべる手が心をあたためる」全く同感です。親切、たすけあいの根本は「思いやり」ですね。ひとりひとりが「思いやり<sup>の</sup>心」を育てた時、「心<sup>が</sup>大きな光」になってみんなを照らすことでしょう。



## みんなのひまわり

北園小学校 四年 太<sup>おお</sup>田<sup>た</sup>有<sup>あり</sup>咲<sup>さ</sup>

一年前におばあちゃんにあげた  
ひまわりが育っていた。  
そのひまわりの花は、ぐんぐん伸び  
気づいたら私をおいこし  
おばあちゃんもおいこしいつのまにか  
空を見上げていた。  
ひまわりは、空まで  
伸びたいのかな  
これからもまっすぐ伸びて  
おじいちゃんとおばあちゃんを  
元気にさせてね。





## 大きくなった私

藤坂小学校 六年

おやまだ  
小山田

な  
夏那

衣類の整理をしていた時

お母さんが着なくなった服が出てきた

「これ、あげるよ 夏那、着てみる？」

とお母さんが言った

私が好きな色、

模様でサイズもピッタリだった

「夏那はもう大人のサイズだね」

お母さんと背くらべを試してみた

ほとんど同じくらいの高さだった

私はもう身体は大人と同じなんだな

嬉しくなってジーンとした



## それがいい

沢田小学校 六年

おがさわら  
小笠原

ひ  
日葵

うーん。

お母さんのたん生日

何にしよう

お母さんは何が好きだった

犬？チョコせんべい？お花？

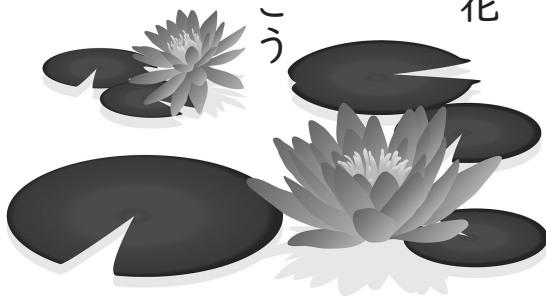
お母さんのまじゅけ ハスの花

お母さんはお花が好き

買うのだとばれちゃうから

手紙でハスの花をきれいにここう

うんそれがいい。







## 私のお母さんお父さん

ちとせ小学校 六年 牛<sup>うし</sup>崎<sup>ざき</sup>萌<sup>も</sup>音<sup>ね</sup>

お母さんはおこる

お父さんはのんびり

私はいつもおこるところを見る

私はいつものんびりしているところを見る

けど

たまあに二人でお出かけをする

楽しそうにおしゃべり

お母さんお父さんは仲がいい

だから 私は気分がいい



## ばあばの料理

東小学校 六年 斉<sup>さい</sup>藤<sup>とう</sup>望<sup>み</sup>羽<sup>う</sup>

青森のばあば 料理が上手

遊びに行くとき 私もお手伝いをする

郷土料理

お盆やお正月の料理

たくさん教えてもらったよ

ばあばも

お母さんやおばあちゃんに

教えてもらったんだって

昔から伝えられている料理

途切れないように

私も子や孫に伝えていきたい



## やさしい心

南小学校 四年 高<sup>たか</sup>屋<sup>や</sup>澄<sup>とう</sup>奏<sup>か</sup>

やさしい心が世界を変える  
やさしい心がみんなにあれば  
ちよつと世界を変えられる  
やさしくされるとうれしくなるね  
だから私もやさしくしたい  
やさしい心が世界を変える  
やさしい心がみんなにあれば  
きつと世界は変わるはず  
一つ一つのやさしさつなげて  
みんなの笑顔をさかせたい



## 人の出会い

北園小学校 四年 中<sup>なか</sup>濱<sup>はま</sup>俐<sup>り</sup>人<sup>ひと</sup>

ぼくがキックボードで転んでしまった。  
ひざもすりむき血がにじみ出てきた。  
痛くて泣いてしまった。  
見知らぬおばあさんが  
「だいじょうぶ？」  
とケガをしたひざに  
バンソウコウをはってくれた。  
ありがとう。  
ぼくは、お礼を言って帰った。  
それからというもの今では  
ぼくとおばあさんはなかよしです。  
おばあさん、ありがとう。



## 風間の祭り

ちとせ小学校 六年 阿<sup>あ</sup>部<sup>べ</sup>結<sup>ゆい</sup>人<sup>と</sup>

山車引っ張った

四時間半引っ張ったよ

お菓子してもらえるから引っ張ったよ

山車を引っ張っているとき、

かけ声のうたを歌っている人

山車を引っ張っている五十人くらいの人

山車が動かなかった時、

でっかい木の棒で山車を動かす人

笛を吹く人、

太鼓をたたく人たちは山車の中にいる

風間の祭りはみんなの祭り

僕はまた来年も出るよ



## 一人じゃないよ

ちとせ小学校 五年 中川<sup>なかがわ</sup>原<sup>はら</sup>芽<sup>め</sup>依<sup>い</sup>

助け合いは

一人では出せない力

「手伝うよ」の一言で元気がわく

弱いときは だれかに助けってもらって

強いときは だれかを助ければよい

助け合いは未来へつづく勇気になる





## 防パトレンジャー

三本木小学校 四年 福村華梨

「おはようございます」

暑い日も、雨の日も、風の日も、雪の日も、

え顔の防はんパトロールたい。

私達を見守るスーパーせんし。

「今日もいるかな？」

元気よく私も

「おはようございます！」

いつもありがとう防パトレンジャー！



## 中学校の部



### 祖父の趣味

十和田中学校 二年 小山田虹胡

七十九歳の祖父は

趣味で今も絵を描いている

先日、祖父の個展を観に行った

額の中の絵には

優しさと強さが滲み出ていた

たまに会うと

「よく来たなあ。また背が伸びたか？」

と、明るく声をかけてくれる祖父

普段の印象からは見られない

心の強さを個展で感じ取った

祖父よ

これからもずっと描き続けてほしい

### 講評

祖父の絵に、普段の印象からは見られない心の強さを感じ取ったこと、素敵な気づきだと思えます。虹胡さんの心が大きく成長している証のように思いました。祖父に絵を描き続けてほしいという虹胡さんの願いは、きっと叶うことでしょう。



## じいちゃんと畑仕事

三本木中学校 三年 對馬佳音

「ちょっと休むか」

じいちゃんが冷たいペットボトルの

麦茶をくれた

タオルで汗を拭いながら

たわいのない会話で笑い合う

「トマト大きくなったね」

「うん、いい色だ」

気づけばお互い真っ黒な顔

それを見てまたくしゃっと笑う

となりにいるだけで心がほっと温くなる

この時間が私の宝物

じいちゃん、来年も一緒に汗を流そうね

## 講評

何気ない二人の会話の中に、普段から一緒に畑で汗をながしているのだろうな、おじいちゃんは佳音さんの成長を目を細めて見ているのだろうな等の場面が思い浮かび、温かく優しい気持ちになりました。これからも二人でたわいのない会話で笑い合ってくださいね。



## 家族のきずな

十和田中学校 二年 川村祥矢

僕は家族のおかげで

卓球と勉強ができている

おじいちゃんとお父さんの送迎

お母さんのおいしいご飯

僕にとって

いつでも欠けてはいけない

僕の力の源だ

だから僕は感謝の気持ちで

台所に立ち

そうじを手伝う

これが家族の輪

これが家族のきずな



## 「ガンバ!」

東中学校 二年 柿<sup>かき</sup>野<sup>の</sup> ひまり

走っている時

「ガンバ!」

筋トレする時

「ガンバ!」

部活で言うことは

がんばっている友達に言うことは

雰囲気明るくすることは

キツイことを乗り越えることは

仲間も自分も支えることは

挑戦できることは

みんなで言えば笑顔になれちゃうことは

だから今日もがんばろ



## たすけあい

東中学校 二年 吉<sup>よし</sup>野<sup>の</sup> 仁<sup>に</sup> 菜<sup>な</sup>

たすけあい

誰でもできる どこでもできる

たすけあい

みんなを繋ぎ 世界を繋げる。

たすけあい

増やしていこう。 人の数だけ

世界中 たすけあい

世界が平和で みんなが笑顔



## 高等学校の部

### 最優秀賞

#### 支えられて

十和田工業高等学校 一年 津川碧葉

陸上に明け暮れていた中二の初秋、突然、大病を患って生活が一変した。

両親にたくさん心配をかけた。

学校行事にも参加できず、絶望的だった。

後遺症に悩まされながらも、リハビリを頑張り、

高校受験も挑戦した。

今は高校進学し、陸上ができるまで回復した。

今の僕は、沢山の人に支えられていると、

この大病を通して知った。

#### 講評

大病を通して得たものは大きかったですね。周囲の人々への感謝の気持ち、文字を飛び出して、読み手の心に飛び込んで来るようです。周りの人たちに支えられて成し遂げた数々の挑戦ですが、碧葉さんの頑張る姿に、周りの人たちも支えられていたのではないのでしょうか。陸上が出来るまで回復したことを嬉しく思います。





